

6月定例会 市長説明

鍋谷市長が行った市長説明の中から、市民の皆さんに関わりの深い内容を抜粋してお知らせします。
問合せ 総務課
TEL 89・2113

■市政運営の基本

私は、市民の皆様が安心して暮らせるまち、そして将来に希望を持てるまち、人口減少・少子高齢化に負けない、希望と幸福の未来都市を目指し、その実現に向けて、次の三つの柱を基本施策として掲げ、市民の皆様と共に取り組んでいきます。

第一の柱は、若者を選ぶ、希望あふれる能代の実現、第二の柱は、幸せを実感できる、安心・安全の能代の実現、第三の柱は、成長と豊かさを実感できる、持続可能な能代の実現です。

私は、このまちの未来を

皆様と共に創り、新しい時代を切り拓いていく強い決意のもと、私自身が先頭に立って市政運営に当たっていきます。成果にこだわらず、市民の皆様の声に耳を傾け、対話を重ねながら、全ての世代が希望と幸福を実感できるまちづくりに全身全霊で取り組んでいきます。

■水素ラボ構想

構想1として位置付けている水素ガスの再利用施設整備は、令和7年度に実施した基本設計などを踏まえ、実施設計に向けた最終調整を図っているところであります。

また、構想2として位置付けている水素や宇宙分野の産業集積、専門人材の育成などを行うための拠点整備は、現在、関心をお寄せいただいている企業や研究機関などと意見交換しているところとあります。

るところです。

今後は、企業や研究機関などの専門的な知見やノウハウを共有しながら、産学官による協議会の設立に向けて検討を進め、水素ラボ構想の早期実現に向けて取り組んでいきます。

■外国人材の受入と多文化共生の推進

昨年度から、外国人材と地域住民との相互理解の促進を目的として多文化共生イベントを開催し、交流を深めてきました。

今後は、これまでのイベントに加え、外国人材や企業側の担当者がいつでも気軽に相談でき、外国人同士や地域住民との日常的な交流が生まれる常設の多文化共生拠点の設置に向け、市内の複数箇所の実証事業に取り組み、その在り方を探っていきたいと考えています。

■小水力発電導入調査

小水力発電は、大規模なダムを必要とせず、河川や農業用水路などの自然な流れを利用して発電するため、安定した電力を供給できる脱炭素電源として注目されており、県内でも導入する事例が増えています。

本市の区域内にも有望な河川があり、能代市次世代エネルギービジョンにおいては、設備容量3456kWの導入ポテンシャルがあると推計されています。

市としては、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、エネルギーのまち能代の取組の一つとして、その導入の可能性について調査したいと考えています。

※市長説明の全文は市ホームページに掲載しています。



今定例会に提案された一般会計補正予算

■一般会計補正額	3億3,345万1千円
主な補正予算（歳出）の内容	
○小水力発電導入調査事業費	2,000万円
○水素ラボ構想事業費	2,768万2千円
○農業法人育成事業費	1,262万円
○赤沼球場改修事業費	608万3千円
■補正後の予算総額	325億9,145万1千円

